

平成 27 年 11 月 26 日

赤門鍼灸柔整専門学校
校長 坂本 正憲 殿

学校関係者評価委員会
委員長 横山 光太郎

平成 27 年度 学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員会は「平成 26 年度学校自己評価報告書」に基づき学校関係者評価を行いました。下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| ① 横山 光太郎 (地域関係) | 仙台市青葉区八幡 5 区町内会役員) |
| ② 加藤 武司 (高等学校関係) | 前明成高等学校校長) |
| ③ 宗形 明子 (卒業者関係) | 昭和 59 年鍼灸指圧科卒業
ホテル飛天治療院) |
| ④ 押切 悦男 (学識経験者) | 税理士) |
| ⑤ 種村 正昭 (保護者関係) | 中山鍼灸接骨院) |

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 27 年 10 月 8 日(赤門鍼灸柔整専門学校 会議室)
第 2 回委員会 平成 27 年 11 月 16 日(赤門鍼灸柔整専門学校 会議室)

3 学校関係者委員会報告書

別紙のとおり

以 上

1. 教育理念、教育目標等について

- 建学以来60有余年にわたり構築してきた建学の理念に基づいた教育目標、育成すべき医療人としての人間像は明確であり、これまでに多くの有為な医療人を社会に送り出してきたことを評価する。今後も継続して鍼灸師や柔道整復師などの倫理観を併せて植えつけられるよう、周知徹底を計られたい。

2. 各評価項目について

(1) 重点目標について

- 平成12年(2000年)に養成学校の設立が規制緩和され、年々少子化が進むなかで、他の養成学校との違いを明確に打ち出すことは大切である。今年度から職業実践専門学校課程の認定を受けるなど一層質の高い職業専門学校へと進もうとしていることは評価できる。
- 社会のニーズを踏まえ、学校の将来構想をどう確立するかは今後の大きな課題である。広く意見を聞き、年度、中間、長期に分けることによって、より具体的な計画が可能と思われる。

(2) 学校運営

- 学校の運営方針・事業計画・運営組織・就業規則等の諸規程が適切に規程され、円滑に学校運営が図られている。
- 学校運営上、非常勤講師が多く、それぞれに専門性が高く多様化しており課題も多いと思われる。明確な方向性、周到な計画性、実践後の課題の集約など情報の共有化、情報のシステム化をどう図るか検討していくことが大切である。また、情報公開は時代の要請であるが、情報流出によるダメージを避けるように留意すべきである。

(3) 教育活動

- 教育課程の編成と実施、教育評価、授業時数の確保、指導方法の工夫・開発等適切に行われており評価できる。
- 国家資格を取得するための指導体制が確立しており、外部関係者の評価を取り入れたり、附属の臨床治療所での実習や治療院を開業している講師の授業など、実践的で専門的な職業教育（キャリア教育）が実施されており評価できる。
- 治療院開業の講師との研修会や学校協会の教員研修会、学会の学術大会、統合医療を推進するためのセミナー（年4回）などの多くの研修会に参加し、教員の資質の向上、に注力していることは評価したい。
- 東洋医学の方向性の一つとして、統合医療の視点は欠かせない分野なので、積極的に取り入れてほしい。

(4) 学修成果

- 国家試験の資格取得率並びに就職率ともに高く、指導の成果が高く評価できる。
- 全国的な傾向として現在の学生の学習意欲の低下、将来の進路に対する目標の稀薄さなどの「志」（こころざし）の低さなど大きな問題となっている。意欲を持たせ、将来の大きな夢に挑戦させる指導のあり方の研究が必要になってくると思われる。
- 社会では、コメディカルが不足がちな介護や訪問マッサージの方に就職が安易に移行しがちだが、鍼灸を「志」した者は、再度「志」を大きく持つよう自覚を促す必要があると思われる。

(5) 学生支援

- 進路相談、就職相談、悩み相談（精神的、学習面、経済面、生活全般）等については、学生が自由に気軽に相談できる体制づくりが肝要かと思われる。
- 学生のボランティア活動、業界の学術大会等の参加をサポートしており評価できる。
- 学生寮の整備、大型駐車場、スクールバスの運行、課外活動等の施設・設備など、きめ細やかな対応をしており評価できる。
- 防犯（カメラ設置）防災の対応など適切に対応されており評価できる。

(6) 教育環境

- 法令で定めている教室、実習室、柔道場、図書室（現在は約4千冊）はもとより、バレー・バスケットコート、附属臨床治療院などが充実しており評価できる。
- 鍼灸師を志す者には、手先が生命で重要なので、バレーボールは推奨できない。
- 東日本大震災を教訓に防災マニュアル、防災訓練、飲料水・食料品の備蓄など体制が整備されており評価できる。

(7) 学生の受入れ募集

- ホームページによる学校紹介、年2回のオープンキャンパス、高校主催の学校説明会等PR活動も力を入れているが、地下鉄東西線の利便性などを大いにPRして、より充実した募集活動の展開を望みたい。
- 職業実践給付金制度が認可され、社会人の入学者が強化され期待ができる。

(8) 財 務

- ・ 少子化や経済状況の悪化等も視野に入れて、より積極的な募集活動の展開を図り、定員の充足率を高める努力を期待したい。
- ・ 医師、大学教員が担当する授業科目は、教育専攻科を卒業した教員も行えるが、教育内容の質を維持し資質の向上のために努力されたい。

(9) 法令等の遵守

- ・ 社会変化に伴い法令がたびたび改正されるので、法令等の遵守については、教職員・学生に徹底してあたられたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・ 赤十字奉仕団の献血活動等で2度目の厚労大臣表彰を受けたこと、学園祭の「1日治療院」など社会貢献や地域貢献はボランティア精神の育成として評価できる。

(11) 国際交流

- ・ 当校のもつ独自のルートを活用して、当校にしかできない国際交流を期待したい。